

決算審査特別委員会（令和4年度決算）（環境生活部）

立憲民主党 入江晶子議員 答弁要旨

令和5年11月7日（火）開催

1. 生活排水対策事業について

（問）入江晶子委員

- ・令和4年度において単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ったとのことだが、県内の進捗はどうなっているのか。

（答）渡邊水質保全課長

- ・令和4年度末時点の単独処理浄化槽の設置基数は約28万基、合併処理浄化槽の設置基数は約27万基で、合計約55万基に対し、合併処理浄化槽の割合は約49%となっている。

（問）入江晶子委員

- ・単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を更に進める必要があるが、どのように取り組んでいくのか。

（答）渡邊水質保全課長

- ・県では、合併処理浄化槽への転換を進めるために、引き続き、国と協調して、設置者向けの補助事業を実施する市町村に対し 助成を行っていくとともに、県独自の取組として撤去費の上乗せ補助等を行っている。今後とも、市町村に対し県補助事業の活用を促すなどして、引き続き、合併処理浄化槽の普及促進に取り組んでいく。

（問）入江晶子委員

- ・水質の指標であるCODの令和4年度の印旛沼における値と傾向はどうか。

（答）渡邊水質保全課長

- ・令和4年度の印旛沼におけるCODの年平均値は1リットルあたり13mgで、近年の状況をみると、概ね横ばいで高止まりの状況である。

（問）入江晶子委員

- ・「印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第8期）」における、合併処理浄化槽の設置促進について、令和7年度の目標に対する令和4年度の進捗状況はどうか。

（答）渡邊水質保全課長

- ・印旛沼流域における高度処理型合併処理浄化槽の助成基数の目標値は、令和3年度から令和7年度までの5年間で866基補助することとしている。令和3年度と令和4年度の2年間の補助基数は331基である。

（問）入江晶子委員

- ・達成状況は4割程度ということか。

(答) 渡邊水質保全課長

- ・達成状況としては38.2%である。

(要望) 入江晶子委員

- ・市町村への働きかけなど地道に進めていくことを要望する。

(問) 入江晶子委員

- ・立入検査件数が延べ476件、指導件数は延べ107件とあるが、令和4年度中にすべて指導を完了したのか。

(答) 渡邊水質保全課長

- ・令和4年度中にすべて指導を完了したわけではない。
一部指導を完了していないものについては、引き続き指導を継続していく。

(要望) 入江晶子委員

- ・早めに完了するよう県としてもやっていただきたい。

(問) 入江晶子委員

- ・法定検査の実施状況について、令和4年度の状況はどうか。また、全国平均と全国順位はどうか。

(答) 渡邊水質保全課長

- ・令和4年度末の本県の受検率の速報値だが、浄化槽設置後の検査である7条検査の受検率は79.0%、年1回の定期検査である11条検査の受検率は14.2%となっている。

環境省から公表される全国平均と順位については、令和3年度のデータが最新値であり、7条検査は全国平均が94.9%のところ、本県が78.2%で全国ワースト2位、11条検査は全国平均が47.1%のところ、本県が13.5%で全国ワースト3位となっている。

(問) 入江晶子委員

- ・受検率向上に向けて、どのような課題があるのか。

(答) 渡邊水質保全課長

- ・保守点検に加え、法定検査が必要であることについて、みなさまの理解を得ていかなければならないことが課題と考えている。

このため、各種広報媒体を活用した周知のほか、新規設置者全員への検査案内、未受検者への督促文書の送付などを引き続き行うほか、建設業の団体等を通じた制度の周知にも取り組んでいく。

(要望) 入江晶子委員

- ・受検率の向上に向けて、取組を強化するよう要望する。

2. 県立美術館について

(問) 入江晶子委員

- ・県立美術館について、令和4年度において、具体的にどのような施設整備を行ったのか。

(答) 赤池文化振興課長

- ・建物の補修保全という観点で屋上防水工事の実施設計や、館内電話設備の更新工事、蓄電池の交換工事などを実施した。また、それ以外に隣接するポートパークとの連絡通路の整備や、芝生広場の整備等を行った。

(問) 入江晶子委員

- ・次にソフト面で、令和4年度における企画展等の実施状況と、入場者数はどうだったのか、また、来館者を増やすための取組をどのように実施したのか。

(答) 赤池文化振興課長

- ・令和4年度の企画展等の実施状況は、「江口寿史イラストレーション展」が2万9,601人、「山下麻衣+小林直人ーもし太陽がなかったらー」が、4,484人、「クールベの嵐」が、4,836人それぞれ入場いただいた。来館者を増やすための取り組みとしては、江口展では、知名度もあり、話題性のあるアーティストの展示であり、幅広い年齢層、またこれまで県立美術館に足を運んだことのなかった方にも興味を持っていただけるような展示に取り組んだ。

(問) 入江晶子委員

- ・企画展、特別展も含めて、企画によりかなり入場者数に影響してくることを改めて認識した。次に、令和5年度施行となっていた博物館法の改正に向けて、令和4年度にどのように取り組んだのか。

(答) 赤池文化振興課長

- ・改正博物館法では、多様な主体との連携や地域活性化に資する取組等が求められている。県立美術館における取組については、昨年度から千葉みなと地域の活性化を目的としたイベントに出展し、地域との連携を図ったとともに、先ほど施設整備のところでも申し上げたが、隣接するポートパークとの連絡通路や芝生広場に憩いの空間として「みちのにわ」を整備するなど、周辺施設との回遊性を高める取り組みを行った。

(問) 入江晶子委員

- ・私も企画展・特別展があるときは必ず足を運ぶようにしており、昨年度から大きく美術館の内容もそうだが、空気が変わったなと感じている。今年度からは、民間から専門性の高い、経験豊富な館長もお迎えして、また、有識者による美術館のアドバイザリー会議などを踏まえて、活性化に向けて取り組んでいることについて非常にうれしく思っており、期待もしているところである。そこで、現在検討されている千葉県立美術館活性化基本構想の策定に向けて今どのように取り組んでいるのか。

(答) 赤池文化振興課長

- ・ 専門家による県立美術館のアドバイザー会議でご意見を伺いながら新たに外部から迎えた館長を中心に議論を重ねており、現在、美術館に課せられるミッションや目指すべき姿を達成するための活動方針を基本的な考え方として示すとともに、今後の取り組み方について現在検討しているところである。

(問) 入江晶子委員

- ・ 検討が進められているということで、とりわけ重要だと思うのは、学芸員の確保である。それから外部との連携、他機関との交流事業も含めてどのように取り組んでいくのか、この方向性についてもお聞かせいただきたい。

(答) 赤池文化振興課長

- ・ まず学芸員の確保について、現在、美術系学芸員の採用者の募集人数の増加に向けて取り組んでいるところである。外部との連携については、県立美術館はもともと県内のアートの拠点を目指して設置されており、その機能を発揮できるように取り組むとともに、地域との連携、民間企業と連携した展示等の取り組みを通じて、そのような機能を果たして行きたいと考えている。

(要望) 入江晶子委員

- ・ 博物館法を改正したことにより、社会教育施設からもっとリングが広がって文化観光拠点のような役割にも位置付けられていると聞いている。しっかりと専門人材の確保に努めていただき、さらに県民にとって身近で、そして潤いを与えられる、地域の活性化につながる美術館の運営に向けて、引き続きご尽力をいただきたい。